

ひろしまDP事件を周知していただくために

事件と裁判の概要

2006年9月、広島市で500頭にも及ぶ犬が、テーマパーク内で飼育放棄されているためひどい飢餓状態に陥っているという事件が世間を驚かせました。

その結果、『ひろしまドッグぱーク(以下DPと称す)の犬の救済の為』という目的の元、マスコミやインターネットを通じて、全国から2億円以上に及ぶ金や大量の物資が集まりました。

しかし、集めた当事者である、愛護団体を名乗るアーク・エンジェルズ(現エンジェルズ、以下AAと称す)は、犬に必要な適正な治療を殆ど施さず、里親丸投げとも思える早期の譲渡会を行いました。その後、犬の頭数が減っているにもかかわらず、AAは長期にわたり「犬の医療費の赤字がかさんでいる」と虚偽をHP上にアップし続け、さらに募金を集め続けました。

結果、AAには多額の支援金と物資が転がり込みました。12月、AAは高まる批判に追われるようにDPから撤退し、支援金や物資の殆どを大阪に持ち帰りました。

2007年1月に入り、中国新聞によって、それまで6000万円程度と発表していた支援金が1億円を優に超えていたこと、早期に数度にわたり4000万円以上が支援金の口座から抜き出されていることが報道されると、林代表は治まらぬ批判の声に、渋々と犬の避妊去勢代の補助や、支援金返還の組戻しに応えました。しかしそのアナウンスは短期間、HPの隠されたページで、AAが決めた一方的な条件規制の下、こっそりとなされました。

私達原告は、この様なAAの詐欺行為を許しては、今後のボランティア基金＝募金活動や、動物愛護運動を後退させるものであると考え、この事件に潜む犯罪性を明らかにするために、刑事告訴を視野に入れた民事裁判を起こしました。

裁判で調査囑託が進む中、AAは数千万円にも及ぶ支援金を、親族の口座に振り込むなど、十数にも及ぶ口座に分散し、マネーロンダリングしている事実が明らかにされてきました。加えて、振り込まれた支援金の他、多額に集まったはずの、現金で寄せられた募金のほとんどが、所在不明になっていることが判りました。

AAの林俊彦代表は、集まった高額な物資をネットオークションで転売したり、代表個人のライフラインの滞納金に流用したり、グッズの製作費に充てたりしていました。その使い道は本来の目的である『医療費』とはほど遠いものであるのは明らかなことです。また、元スタッフの内部告発から、管理の悪さから大量の物資の大半をだめにし、廃棄した事実も明らかになっています。

2007年、AAは集まった莫大な支援金を元にして、住民の納得を得られるような説明もなく、約束を一方的に反古にして、滋賀県高島市に100頭近い犬を持ち込み、シェルターを構えました。

AAは、シェルターを作ったことにより、多くの犬を救う目的と合致していると強弁していますが、その実態は多くのブランド犬を集めることにより、さらなる集金を目論んだものです。事実彼らの主張するレスキューは真のレスキューとはほど遠く、実際は犬を引き取ったブリーダーに多額の費用を請求するなど、ほとんど強奪・恐喝行為に近いものです。

よってこの裁判は、支援金による生活者が愛護団体といえるのか、寄付行為の顛末という不透明な部分に風穴をあけるべく、愛護団体を訴えた日本初の裁判として、重要な役割を担っていることをご理解いただければと思います。

以上

事件の詳細をお知りになりたい方は原告の会HPをご覧ください。<http://hdp-genkoku.net/>